

訪問看護メモ

■インフォームド・コンセント

今ではあたりまえに耳にするようになったこの言葉。その意味は人々にどこまで認識されているのでしょうか？インフォームド・コンセントとは、【医師が患者に対して、受ける治療内容の方法や意味、効果、危険性、その後の予想や治療にかかる費用などについて、十分にかつ、分かりやすく説明をし、そのうえで治療の同意を得ること】をいいます。今は患者自らが知りたい情報、正しい情報を求め、それらを得て、主体的にどうするかを選択・決定できる時代となりました。残念ながら、「先生の言うとおりにするしかない」「先生に、すべておまかせする」とおっしゃる方、疑問に感じることもあっても、聞くことすらできない方がまだ多いらしいことを、関わる方々とお話する中で感じます。貴方のたいせつな人生、そしてお体です。ご家族にとっても同じではないでしょうか。ご自分はどうしたいのか、そしてご家族はどう感じるか・・・しっかりと話をなされ、主治医の先生とも相談をすることが大切ですよ。おひとりおひとりがこうありたいと望むお気持ちが一番優先される医療・・・それは医療者だけでなく、みんなでつくるものと私たちは考えております。

NPO いのちは

「いのち」に関わること、真にひとが豊かに生きるための活動を行っています。NPO いのちは2001年から2005年まで、在宅ターミナルケアを専門とした活動を行い、生きている人の問題として、死を見つめ、真正面に対することが真にひとが豊かに生きることに、つながると考えてきました。NPO いのち訪問看護ステーションは、これまでの活動をふまえ、かけがえのないひとりの生命、人生に向かい、大事にすること、そしてNPO いのちならではの支援に積極的に取り組んで参ります。



ある日のスタッフ便りより

NPO いのちホームページにてスタッフ便り随時更新しています (www.npoinochi.org)

ふと陽の光を受けて、雪が解け次々と花開く福寿草のすがたをみました。訪問看護は病気の方をご訪問し、限られた時間のなか必要な看護を行っています。ひとりで生活なさっている方、ご家族と一緒に生活なさっている方、有りようは様々ですが、生きることへの不安や心配、周囲の人に「迷惑」をかけたくない」と気遣う気持ちは皆さん同じです。ある方は、「生きることは‘我慢’すること」と仰いました。私自身にも心当たりのある言葉です。迷惑とは？我慢とは？一体何なのでしょうかと日々考えます。

そのような心が、気持ちが、太陽の光をうけた雪解けの雪のようにとけ、‘生きる’ことは希望’と一瞬でも感じられるような花開く時を、人生を、共に歩いていく看護となれば…と深く感じる春の訪れです。